

革新的研究開発リーダー養成システムの構築

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：九州大学（総括責任者：有川 節夫）

プロジェクトの概要

本課題は、異文化・異分野・異業種との交流の場への参加を通じて、産業界の多様な場において、創造的な成果を生み出す能力を身に付けた卓越した研究開発リーダーとして活躍する人材を養成することを目的としている。具体的には、学内にイノベーション人材養成センターを設置し、本取組の全体のマネジメントを行う。養成方法としては、博士号取得者コースと博士後期課程学生コースを設けて、国際交流研修（異文化）、産学共同研究参画（異分野）、国内外企業研修（異業種）の実践プログラムを開発・実施する。本取組が養成修了者の優秀性に起因して産業界から高く評価されることにより、実施機関以外の他大学へも普及し、我が国大学の若手研究人材養成の変革につながることも期待できる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
B	b	b	b	b	b

総合評価： B（所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる）

(2) 評価コメント

センターで開発したキャリア教育の講義を大学院共通教育科目へ展開、各学府の必修講義へ落とし込むなどの全学展開、また、バイオ系の研究者への取組は評価できる。しかしながら、実施内容が本事業の主旨である機関としての若手研究者養成システム改革につながっておらず、学内全体の教員、博士人材の意識改革が不十分である。今後は、熱意を持ってイノベーション創出若手研究人材養成のための全学的目標及び体制を明確にし、意識改革の意味や若手研究人材養成システム改革の進捗の定量的評価方法などを見直す必要がある。

- ・**目標達成度**：養成修了者数、企業への輩出者数については数値目標の9割弱を達成しているが、後半の2年間の養成者数、輩出者数の減少に対する分析と対策が講じられていない。全学レベルでのイノベーション資質を備えた博士人材養成という視点でのシステム改革が不十分である。
- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：合宿形式の「志」教育研修は、受講者の狭い視野を広げ意識改革に繋がると評価できる。しかしながら、長期取組、座学構築、就職支援にとどまっており、科学や産業におけるイノベーション創出人材養成としての視点に基づいた大学としてのプログラム構築、システム改革となっていない。大学の博士人材の教育、キャリア支援を考えた時に、「志」教育のあり方、また、プログラムの要求する3ヶ月以上の長期取組の意味

について大学としての事後検証をした上で、継続、実施することが必要である。

- **実践プログラムの開発・運用状況**：バイオ系人材への取組、座学の構築と大学院共通科目への落とし込みは評価できる。しかしながら、人材養成としては座学だけでは不十分である。「志」教育→長期取組→産業界への輩出に対して、大学としての方針、戦略が感じられず、この5年間のイノベーション若手研究人材養成を目指した教育システムの改革、進化が見えない。イノベーション人材の輩出につながったかの検証を行うことが必要である。
- **実施体制**：イノベーション人材養成センターを構築し本事業を実施してきたが、センター内の事業にとどまり、全学的な広がりが不十分である。事業の成果の分析、対策、改善というPDCAサイクルが機能していないことから、今後、総長等の責任者のリーダーシップの下にPDCAサイクルを積極的に廻し、全学的事業として熱意を持って推進されることが必要である。
- **今後の進め方**：新たに設置した、学部生から大学院生全体の生活・進路・就職支援をするための学生支援センターで本事業を継続していくとあるが、イノベーション創出若手研究人材養成という博士課程学生、ポストドクターの教育・キャリア支援システム改革の視点が見られない。産業界と協働した博士人材養成に対する大学の方針、体制、資金計画ともに不十分で、より具体的、精緻な計画の検討が必要である。